

## 日中対訳に見る“会”の意味特性について

張 素 娟

### Abstract

With regard to the characteristic of the meaning of ‘hui’, it is regarded that ‘hui’ can ‘express inference’ (Aihara1996) or have the meaning of ‘matters materialize spontaneously’ (Huanglihua1995) in conventional research. However it is not clear which is the characteristic meaning of ‘hui’, ‘inference’ or ‘necessity’. In this paper, we analyzed the feature of Japanese sentences corresponding to ‘hui’ and the change of the meaning by having or not having ‘hui’. As a result, we understand that when the subject is in the case of the first person, the characteristic meaning of ‘hui’ is ‘unaccomplished + will’. When the subject is in the case of the second person or third person, the characteristic meaning of ‘hui’ is ‘unaccomplished + grounds for possibility’.

キーワード……未完成 根拠 推量 確言表現 意志表現

### 1 はじめに

現代中国語の可能助動詞の“会”は「能力」と「可能性」を表すことができる。「能力」を表す場合の“会”に関しては、「動作・状態の担い手が兼ね備える生得的・習得的能力を以ってその属性を描く(勝川(2011))」のように、すでに多くの研究者が一定の研究成果を出している。「可能性」を表す場合の“会”に関して、黄麗華 1995:86<sup>1)</sup>では“会”は「事柄が自然に成立する」と述べられている。

教育及び学習においても、可能性を表す“会”は「蓋然性」あるいは「推量」として導入する場合が多い。相原 1996:179 では蓋然性を表す“会”について「…のはずだ、だろう」という用法を示している。

実際、“会”が表している可能性は蓋然性なのか、それとも必然性なのかはこれまで十分に論議されていない。また、実用上、日本人学習者が中国語を学習する際、或いは中国語を翻訳する際に、“会”の「…のはずだ、だろう」という解釈だけでは説明しきれない部分が沢山あり、「可能性」を表す“会”に対応する日本語構文はそれ以上に多様であると思われる。さらに、中国語文では“会”を用いるのに、対応する日本語文では特に訳されない場合がしばしば見られる。それと同じように、日本語文に対応する中国語文においてもこのずれが生じる。これは

日本語と中国語の時制を示す形式の相違に大きく関わっていると考えられる。そのため、この形式の相違及び日本語と中国語の対応を理解しないと“会”の適切な使用は困難であると思われる。

本稿では、北京日本語研究センターが作成した《中日対訳語料庫》(日中対訳コーパス)(以下コーパス)から“会”に関する日中対訳用例文を収集し、日中対訳における“会”のずれを中心に、“会”を日本語における対応構文と比較した上で、“会”の普遍的、個別的な特性を究明したい。

## 2 “会”と推量表現

第1章で述べたように、可能性を表す場合の“会”は教育及び学習上、「だろう」「のはずだ」と意味解釈されている場合が多い。実際の例を集計した結果、「だろう」「のはずだ」のほかに、「ものだ」「決まって…する」「てしまう」などと訳される用例も多く存在する。本稿はこれらの“会”に対応する日本語訳の確信度を基準に「だろう類」という「非確信的推量表現」と「はずだ類」という「確信的推量表現」の2種類に大別する。この2種類の推量文は仮に“会”を取ると文の適格性はどのように変化するかを中心に日本語訳文と比較対照をしながら考察したい。

さらに、中国語文では“会”を用いるのに、日本語文では特に訳さないという“会”の「消失」現象もしばしば見られる。逆に言うと、日本語では特に推量表現を用いていないが、中国語文には“会”を付けないと意味的に不自然か、あるいは成立しない用例が多くある。したがって、実際に、日本人中国語学習者の中国語のエラーには“会”の脱落問題がある場合が観察される。本章では、これらの現象を考察し、中国語を日本語に訳す際に、何を手がかりに“会”を使うか、使わないかを考察し、“会”の意味特性の解明を試みる。

### 2.1 “会”と「非確信的推量表現」との対訳について

寺村 2007:118 では推量を表す表現の共通する点として「いずれも不確実な事態で、それに対する話者の推量的判断…」と述べられている。この「話者の推量的判断」のうち「だろう」のような「多分そうなるであろうと想像する<sup>2)</sup>」推量表現を本稿では「非確信的推量表現」と呼ぶ。また、「はずだ」のような「事態や事柄を確信的に推量する<sup>3)</sup>」推量表現を「確信的推量表現」と呼ぶ。本節で考察する「非確信的推量表現」についてコーパスで検索された対応例をまとめた結果、“会”に対応する日本語の「非確信的推量表現」は具体的な表現形式として、「だろう」「かもしれない」「…そう」「ものでしょうか」「(の)ではないか」「でしょうね」がある。以下でそれぞれの特徴について考察する。

## 2.1.1 三つのタイプ

本稿では、“会”が含まれる「非確信的推量表現」の中国語文には以下の三つのタイプ<sup>4)</sup>があると考えられる。一つ目は“会”の前に推量を表す副詞、或いは文末に終助詞の“吧”を付ける「副詞＋“会”＋（“吧”）」タイプであり((1)-(5))、二つ目は、「“会”＋“吧”」タイプ((6)-(9))、そして、三つ目は「“会”だけ出る」タイプである((10)-(13))。以下でこの三つのタイプの具体例を考察しながら、“会”の使用可能性を検証したい。((a)は中国語原文の用例；(b)は日本語訳文の用例である。(c)は(a)の原文から“会”を省略した文である。)

## 「副詞＋“会”＋（“吧”）」

- (1) a. 大概会安排您睡二楼的西式房间,请别忘了把电灯关掉。 (《斜阳》)  
 b. あなたは、たぶん、二階の洋間におやすみという事になるでしょう。お忘れなく電燈を消して置いて下さい。 (『斜陽』)  
 c. 大概安排您睡二楼的西式房间,请别忘了把电灯关掉。
- (2) a. 你将会看到她,你的可爱的大女儿,可亲的小朋友。 (《人啊,人》)  
 b. あなたはあの子に会えるでしょう、あなたのかわいい長女、親しい小さな友だちに。 (『ああ、人間よ』)  
 c. 你将看到她,你的可爱的大女儿,可亲的小朋友。
- (3) a. 也许读懂了樱花,便会读懂日本人吧。 (《中日飞鸿》)  
 b. 桜を知り尽くせば、日本人を知り尽くすことになるのではないかと思われてならない。 (『日中飛鴻』)  
 c. \*也许读懂了樱花,便读懂日本人吧<sup>5)</sup>。
- (4) a. 象古贺君这般温良敦厚之士,一定会受到当地人士的欢迎。 (《哥儿(1)》)  
 b. 君の如き温良篤厚の士は必ずその地方一般の歓迎を受けられるに相違ない。 (『坊ちゃん』)  
 c. \*象古贺君这般温良敦厚之士,一定受到当地人士的欢迎。
- (5) a. 我有时自己也想到,倘若先前的朋友看见我,怕会不认我做朋友了。 (《彷徨》)  
 b. 時には自分でも、むかしの友人に出会ったら、もう僕のことを友人扱いにしないんじゃないか、と思うこともある。 (『彷徨』)  
 c. \*我有时自己也想到,倘若先前的朋友看见我,怕不认我做朋友了。

## 「“会”＋“吧”」

- (6) a. 国家会给救济粮吧? (《插队的故事》)  
 b. 国が救援食料をくれるでしょう。 (『遙かなる大地』)  
 c. 国家给救济粮吧?

- (7) a. 政府不会让这号人再压咱们穷人一头吧？ (《金光大道》)  
b. 政府は、あの手合にまたわしら貧乏人の頭を踏みつけにさせるようなことは、ねえだらうな。 (『輝ける道』)  
c. 政府不让这号人再压咱们穷人一头吧？
- (8) a. 看，我说燕宁会来的吧！ (《轮椅上的梦》)  
b. ほら、燕寧はきっと来るって言ったでしょ！ (『車椅子の上の夢』)  
c. 看，我说燕宁来的吧！
- (9) a. 不会有什么变化吧？ (《青春之歌》)  
b. なにも変化はないでしょうね？ (『青春の歌』)  
c. 没有什么变化吧。

### 「“会”だけのタイプ」

- (10) a. 黎明前的高粱地里，静寂得随时都会爆炸。 (《红高粱》)  
b. 夜明け前の高粱畑は、いまにもはじけそうなほど静かだ。 (『赤い高粱』)  
c. \*黎明前的高粱地里，静寂得随时都爆炸。
- (11) a. 假如你的丈夫真爱你，也不会因为眼前有了一个新人，就把你完全忘掉。 (《关于女人》)  
b. もし、夫があなたを真に愛しているのなら、目の前に新しいひとが出現したからといって、すぐさまあなたを忘れられるものでしょうか。 (『女の人について』)  
c. \*假如你的丈夫真爱你，也不因为眼前有了一个新人，就把你完全忘掉。
- (12) a. 父亲，假如您看见她，您也会动心呢，她长得真像母亲！ (《关于女人》)  
b. 父さん、もしその方にお会いになれば、お父さんも心惹かれることでしょう。 (『女の人について』)  
c. \*父亲，假如您看见她，您也动心呢，她长得真像母亲！
- (13) a. 人们结婚后不是两个人生活在孤岛上，就是在孤岛上，过了几天，几月，几年以后，也会厌倦腻烦，而渴望孤岛外的一切。 (《关于女人》)  
b. 人は、結婚して離れ小島で生活するわけではありません。かりに離れ小島で暮らしたとしても、何日か、何か月か、何年か経つうちに飽きてきて、いやになり、離れ小島以外のあらゆるものが、よく思えるでしょう。 (『女の人について』)  
c. ?人们结婚后不是两个人生活在孤岛上，就是在孤岛上，过了几天，几月，几年以后，也厌倦腻烦，而渴望孤岛外的一切。

(1)-(13)の例(c)で示すように、この三つのタイプのうち、(1)-(5)の「副詞＋“会”＋(“吧”)」というタイプのほとんどの場合は、“会”を付けないと文が不自然になる。(6)-(9)の「“会”＋“吧”」のタイプは基本的に“会”の省略は可能である。また、「“会”だけ出る」タイプは一般的に“会”を省略してはいけないことが観察できる。このことから日本語の推量表現と推量を

表す“会”は異なる特徴を持っていることが分かる。

### 2.1.2 分析

寺村 2007:118 では、五つの用例で異なる五つの推量状況<sup>9)</sup>が表現されている。

- (14) a. 今、甲子園では雨が降っているらしい。  
 b. 現在甲子園好像{\*会}在下雨<sup>7)</sup>。  
 (15) a. 明日は雨が降るだろう。  
 b. 明天会下雨吧。  
 (16) a. あの列車に乗っていたら事故に遭っていただろう。  
 b. 要是坐了那趟列车，说不定就会遭遇车祸。  
 (17) a. 両者が化合すれば新しい物質が生まれるはずだ。  
 b. 两者化合会产生新的物质。  
 (18) a. 机の上のチョークが落ちそうだ。  
 b. 桌上的粉笔好像{要/会}掉。

(14)-(18)のうち、(14)だけが“会”の使用が不可能である。それは(14)は「甲子園在下雨」という現在状況への推量を表しているからであると考えられる。王晓凌 2007:61 では「非現実性」は“会”の典型的な意味である」と述べられている。即ち“会”は(14)のような現実に行進中の状況と共起しがたいため、“会”を用いることができない。裏を返せば、(15)-(18)のように、現実未完成の事柄への推測を表す場合は“会”を用い、動作は完成していないことを積極的に表現する必要があると考えられる。以下で、(1)-(13)を検証する。

(1)-(5)のいずれも未完成の事柄である。(1)(3)(4)(5)は事実とは異なる仮定的な状況を表し、(2)は未来のことへの推量を表すため、“会”を用いる必要がある。もし“会”を省略すると、事柄は現在未完成であるという状態を表現できなくなるため、“会”を付けないと不自然になる((1c)(3c)(4c)(5c))。しかし、(2c)で分かるように、“会”を省略しても文は適格である。それは、“会”と共起する副詞の“将”は「もうすぐ・・・であろう」という将来を表す推量副詞であるため、あえて“会”を付けなくても文が成立するからである。

(6c)-(9c)の「“会” + “吧”」のタイプでは、すべての用例で“会”を省略しても文が成立することが分かる。それは(6)-(9)が表す状況及び“会”と共起する“吧”の特性によるものであると考えられる。(6)-(9)は(1)-(5)と異なり、事柄は必ずしも未完成であるマーカが現れているわけではない。また、“吧”は「現在」「完成」「未完成」のあらゆる状況への「推量」或いは「同意を求める」意味を表すことができる。従って、(6a)-(9a)のように“会”を付けて未完成の事柄への推測を限定することもできれば、また“会”を省略し、“吧”のみで他の状況への「推量」を表すこともできる。

(10)-(13)の動作・状態も未完成である。(10)は(18)と同じく「未完成の状況変化を感知する」ことを表し、(11)(12)(13)は未完成の仮定状況への推測を表すため、“会”を用いる必要がある。

### 2.1.3 まとめ

上記の分析で分かるように、未完成の状況を表す場合は、「状況は未完成である」ことを示すマーカが必要である。現代中国語においてアスペクトマーカは“了”、“着”等があり、受身マーカは“被”、“叫”等があるように、本稿では“会”は「未完成の状況への推量」を表すマーカであると考えられる。即ち、未完成の状況に対して推量を表す場合は、一般的に“会”を付ける必要があると考える。

## 2.2 “会”と「確信的推量表現」との対訳について

「確信的推量表現」は話し手が強く確信していることを表す。「非確信的推量表現」に比べると話し手がかつ確信の度合い、思い込みの度合いが高い<sup>8)</sup>。本節で考察する「確信的推量表現」は前節の「非確信的推量表現」と同じように、“会”の前に副詞を付けるという「副詞+“会”+(“的”）」のタイプ、「“会”+“的”」のタイプと「“会”のみ」のタイプがある。しかし、「確信的推量表現」と共起する副詞は「絶対(絶対に)」、「肯定(必ず)」、「准(間違いなく)」、「当然(もちろん)」などの必然を表す副詞が多い。また、“会”と共起する“的”は「主張」、「説明」などを強調する意味があるため、「確信的推量」を表す場合に“会…的”がよく用いられる。いずれのタイプも“会”を省略しても文は適格である場合はほとんどであるため、分けずにまとめて分析をする。

本稿でコーパスに出てくる対応例をまとめたが、“会”(あるいは“不会”)に対応する日本語の「確信的推量表現」には具体的な表現形式として「はずだ」「はずがない」「わけがない」「…こない」「きっとする」「に違いない」がある。以下でそれぞれの特徴について考察する。

- (19) a. 要是注意到了,(对方)一定会马上敲钟的。 (《砂女》)  
b. 気がついたらすぐに,(相手が)半鐘を鳴らすはずだ。 (『砂の女』)  
c. 要是注意到了,一定马上敲钟的。
- (20) a. 他如果看到了那火势,是不会从陆路回来的。 (《黑雨》)  
b. あの火の手を見たら、陸路を帰って来るわけがない。 (『黒い雨』)  
c. 他如果看到了那火势,是不从陆路回来的。
- (21) a. 第二天早上她也不敢问他,因为他准会嘲笑她。 (《倾城之恋》)  
b. 翌朝になっても、流蘇は柳原に訊ねてみる勇気がなかった。きっと自分のことを嘲笑って、こう言うに違いない。 (『傾城の恋』)  
c. 第二天早上她也不敢问他,因为他准嘲笑她。
- (22) a. 伯母也不必再难过了,这件事总算告一段落,我想他们将来都会感激您的。 (《关于女人》)  
b. おばさん、もう、つらい思いは終わったのですよ。どうやらこれは一段落したようです。ふたりも将来きっとおばさんに感謝しますよ。 (『女の人について』)

c. 伯母也不必再难过了，这件事总算告一段落，我想他们将来都感激您的。

(23) a. 是斑蝥虫一族的话不会有这样的爬行方法。 (《砂女》)

b. ハンミョウ属なら、あんな歩き方はしっこない。 (『砂の女』)

c. 是斑蝥虫一族的话没有这样的爬行方法。

(19)-(23)で示しているように、いずれの用例も未完成の事柄であるが、全て“会”がなくとも適格である。しかし、“会”を省略することによって、意味上のニュアンスの変化がある。“会”は本来断定に近いかなり確信的な推量を表すため、“会”を省略すると、推量ではなく、断定として捉えられることになる。(19a)は確たるなんらかの客観的根拠により、「もし気がついたら当然すぐに相手が半鐘を鳴らすだろう」と多少曖昧さが残る推量を表すのに対し、(19c)は「もし気がついたら当然すぐに相手が半鐘を鳴らす」と自信を持って断定するニュアンスになる。(20a)は「彼はあの火の手を見たら、陸路を帰って来る可能性がないだろう」と事柄が成立する理由も可能性もないことを推量しているが、(20c)は「彼はあの火の手を見たら、陸路を帰って来る可能性がない」と断定することになる。(21)(22)(23)も同じである。即ち、未完成の事柄に対してははっきり断言する場合は“会”を用いる必要はないが、はっきり断言するには多少の曖昧さが残る場合<sup>9)</sup>は“会”を用い、確信的な推量を表す。実際、未完成のことに對し、特に三人称主体の場合、他者の意志・行動を断言できるケースもあるが、判断を和らげる推量の“会”を用いる場合が多いと考えられる。

## 2.3 まとめ

以上の分析から分かるように、未完成の事柄に対する話者の推量を表す場合、確信できない推量からほぼ確信できる推量まで、全て“会”で対応できる。故に、未完成の事柄への推量を表す場合は、“会”を付けたほうがより自然な表現であると考えられる。即ち、「未完成+推量」は“会”の本質的な意味特性であると考えられる。

## 3 非推量表現に対応する“会”

第2章で考察したように、対訳において中国語の“会”は日本語の推量表現と一定の対応関係があることが分かる。しかし、コーパスの用例を考察して分かるように、中国語の“会”は推量表現と対応しない用例も少なくない。その中でも、とりわけ、日本語の基本形<sup>10)</sup>に対応している用例が多く観察される。即ち、日本語文では基本形を用いるが、それに対応する中国語文には“会”を付けて表現している用例がある。それは、日本語の時制の特徴及び“会”の意味特性によるものであると考える。

日本語は未来形がない非過去時制言語であり、動詞の基本形は非過去を表す。中国語の“会”は「動作・状態の未完成」を表すため、「非過去の動作・状態の未完成」を表現する場合、日本

語の基本形と一定の対応関係があることは自然と考えられることである。

本章では、“会”に対応する非推量表現の基本形を「確言表現」と「意志表現」<sup>11)</sup>に大別し、“会”に対応する「確言表現」と「意志表現」の種類及び原因を考察し、“会”の意味特性を究明したい。

### 3.1 “会”と「確言表現」

対訳の用例を考察した結果、“会”に対応する日本語確言表現の種類を「本性・自然法則」、「反復・習慣」、「論理的帰結」、「確定的未来」の4種類に大別した。本節では、この4種類の確言表現の特徴を分析し、それに対応する“会”の意味特性を考察したい。

#### 「本性・自然法則」

- (24) a. 气温突然下降，就会起雾。  
b. 气温が急に下がると霧が発生する。 (《日语句型辞典》)  
c. 气温突然下降，就起雾。
- (25) a. 情人的吵架是不会长久的，撒过了娇，流过了眼泪，旁人还在着急的时候，他们自己却早已是没事人了。 (《关于女人》)  
b. 恋人のケンカは長くは続かないものだ。甘えてみたり、涙を流してみたり、はたの者が気をもんでいるときには、彼らはとっくに「そんなこと、あったかしら」である。 (『女の人について』)  
c. 情人的吵架是不长久的，撒过了娇，流过了眼泪，旁人还在着急的时候，他们自己却早已是没事人了。
- (26) a. 疼孩子的男人就是一时有了外遇，用不了多长时间也会回心转意，老老实实地与你过一辈子。 (《活动变人形》)  
b. 子供好きの男性は一時的に妾を囲っても、すぐ改心して家族を一生大事にしていくものだ。 (『応報』)  
c. \*疼孩子的男人就是一时有了外遇，用不了多长时间也回心转意，老老实实地与你过一辈子。  
d. 疼孩子的男人就是一时有了外遇，用不了多长时间就<sup>12)</sup>回心转意，老老实实地与你过一辈子。
- (27) a. 大人们一言不合就会生气，就会骂人，那是毫不留情的。 (《活动变人形》)  
b. 大人たちは一言気にいらないとすぐ怒ったり叱ったり、頭ごなしなんだから。 (『応報』)  
c. 大人们一言不合就生气，就骂人，那是毫不留情的。

「反復・習慣」

- (28) a. 每一个映入眼帘的小动物都会引起她极大的兴趣。 (《轮椅上的梦》)  
b. 何か動物が目にとまるといつも、まわりがびっくりするほど喜ぶ。(『車椅子の上の夢』)  
c. 每一个映入眼帘的小动物都引起她极大的兴趣。
- (29) a. 当谈起久远的往事的时候，听者和叙述者的脸上都会显出这种迷茫的神色来。 (《活动变人形》)  
b. 昔を語る時、聞く者、語る者の顔は決まってこのような茫漠とした表情になる。(『応報』)  
c. 当谈起久远的往事的时候，听者和叙述者的脸上都显出这种迷茫的神色来。
- (30) a. 每个星期，她都会收到不能公开的来信；每个周末，她都有神秘的约会。(《人到中年》)  
b. 毎週他人には見せられない手紙がやってきて、土曜日には必ずデートがあった。(『北京の女医』)  
c. 每个星期，她都收到不能公开的来信；每个周末，她都有神秘的约会。
- (31) a. 每当饲养员牵着牲口从我面前走过，它就会四爪挺立，嗓子里发出猎猎的示威般的吠声。 (《轮椅上的梦》)  
b. 飼育係が家畜をひいて通るたびに立ち上がってワンワン吹えたと、真っ黒な瞳で私を見る。(『車椅子の上の夢』)  
c. 每当饲养员牵着牲口从我面前走过，它就四爪挺立，嗓子里发出猎猎的示威般的吠声。
- (32) a. 当他看到人世间有那么多疾苦，他那颗善良的心就会不安地跳动。 (《轮椅上的梦》)  
b. 世の中の苦しみを見るたび彼の心は不安にゆれる。(『車椅子の上の夢』)  
c. 当他看到人世间有那么多疾苦，他那颗善良的心就不安地跳动。

「論理的帰結」

- (33) a. 一个人不行，圆木会把人也拖进洪流。 (《插队的故事》)  
b. ひとりが失敗すると、丸太は人間を濁流の中に巻きこむ。(『遙かなる大地』)  
c. 一个人不行，圆木把人拖进洪流。
- (34) a. 不要紧啦！多吃东西很快就会好起来的。(《青春之歌》)  
b. もう大丈夫よ。できるだけたくさん食べるようにすれば、すぐよくなるわよ。(『青春の歌』)  
c. 不要紧啦！多吃东西很快就好起来的。
- (35) a. 一撒手，这样的气球就会飞上天空。(《活动变人形》)  
b. 手を放すとフワフワと空中に飛んでいく奴だ。(『応報』)  
c. 一撒手，这样的气球就飞上天空。
- (36) a. 如果摁这个电钮门就会开。

- b. このボタンを押すとドアは開きます。 (《日本語句型辞典》)
- c. 如果摁这个电钮门就开。
- (37) a. 我们男同学不大好意思打听女同学的岁数，根据推测，她不会比我们大到多少。  
(《关于女人》)
- b. 男子は遠慮して、女子学生の年齢など尋ねたりしないが、とはいっても、それほど年上ではない。  
(『女の人について』)
- c. 我们男同学不大好意思打听女同学的岁数，根据推测，她不比我们大到多少。

### 「確定的未来」

- (38) a. 傍晚三泽君打电话说您今天会回来。(《情系明天》)
- b. 夕方三沢さんから今日お帰りになるというお電話がありました。(『あした来る人』)
- c. 傍晚三泽君打电话说您今天回来。
- (39) a. 2020年奥运会将会在东京举行。
- b. 2020年のオリンピックは東京で開催になっている。
- c. \*2020年奥运会将在东京举行。
- (24)-(39)から分かるように、「本性・自然法則」、「反復・習慣」、「論理的帰結」のように時間とは無関係な確言表現も、「確定的未来」のように個別的な一回きりの事象をあらわす確言表現も、中国語文に訳す場合は、“会”を用いても、用いなくても文は成立する。しかし、“会”の有無により、文のニュアンスが変わる。第2章で考察したように、“会”は未完成の推量を表し、“会”を用いない場合は、文は推量から断定になる。本章で扱った用例においては、“会”に対応しているのは確言表現ではあるが、「本性・自然法則」、「反復・習慣」、「論理的帰結」、「確定的未来」のいずれの種類も動作・状態が「完成・未完成」の概念でいうと、「未完成」な事柄であり、本質的に確定した事柄とは言えないが、法則、習慣、論理などに基づけば、必ず事柄が起こるという確信を表現している。この場合に用いる“会”は何かの根拠があり、まだ未完成の事柄がやがて実現することを確信している意味を表す。すなわち、“会”を用いる(24a)-(39a)は、話し手がある基準時点から見る未来への断定として捉えられる。“会”を使わない(24c)-(39c)は、話し手は断定をしているが、基準時点から見る未来への断定という視点を持っているとは言えない。

### 3.2 “会”と「意志表現」

意志表現に対応する“会”文は主に一人称主体の場合になり、話し手の意志を示す表現である。以下で(40)-(44)を考察する。

- (40) a. 请不必暗示，我会按时付钱。 (《活动变人形》)
- b. 遠回しにおっしゃらなくても、金はきちんと支払ます。 (『応報』)

- c. 请不必暗示, 我按时付钱。
- (41) a. 我会永远地爱你。(《家》)  
 b. ぼくは永遠にきみを愛するよ。(『家』)  
 c. 我永远地爱你。
- (42) a. 我们会替你设法, 你只管放心。 (《家》)  
 b. 僕らが何とかするよ。安心しおやりよ。 (『家』)  
 c. 我们替你设法, 你只管放心。
- (43) a. 你带给我的友谊, 我会把它珍藏在心底。 (《轮椅上的梦》)  
 b. あなたの友情を私は胸の奥に大切にしまっておくよ。 (『車椅子の上の夢』)  
 c. 你带给我的友谊, 我把它珍藏在心底。
- (44) a. 我们会手拉手冲出屋门, 把这奇迹和喜悦传遍整个大院子! (《轮椅上的梦》)  
 b. 私たちは手に手をとって、アパート中に、この奇跡を伝えるために中庭へ飛び出す。  
 (『車椅子の上の夢』)  
 c. 我们手拉手冲出屋门, 把这奇迹和喜悦传遍整个大院子。

(40)-(44)は話し手の意志を表す用例である。この場合の“会”の主語は第一人称であり、自分の意志を他人へ伝える際によく用いられる。(40c)-(44c)で示すように、意志を表す用例のいずれも“会”の省略が可能である。しかし、(40a)-(44a)で示すように“会”を付ければ、話し手の未完成の事柄への主観的意志表明になるが、“会”を省略すると、事柄は未完成を表す場合もあれば、現在の状態を表す意味を含意する場合もある。

### 3.3 まとめ

本章では“会”と日本語非推量表現との対応関係を考察した。「確言表現」に対応する“会”は未完成の事柄に対し、恒久、半恒久的な法則、本性、論理的帰結などを根拠にし、事柄がやがて起こるという意味特性を持っている。一方、「意志表現」に対応する“会”は、第一人称である主語の意志表明を表すという意味特性を持っている。すなわち、非推量表現に対応する“会”の本質的意味特性は「未完成+根拠性」或いは「未完成+意志表現」であると考えられる。

## 4 さらなる考察

第2章、第3章から分かるように、“会”の意味特性は「未完成+推量」及び「未完成+根拠性」並びに、主語が第一人称の場合における「未完成+意志性」の三つである。本章では、“会”が表す推量は根拠性をもっているかどうかについて、さらに文と現実の状況との関係を表す「未完成」についてさらなる考察をする。

#### 4.1 推量の根拠性

第2章で考察したように、“会”と日本語の推量表現とは一定の対応関係がある。寺村 1984:224 では、推量表現を含めた概言の共通の意味特徴として「直感的に自分の推量を述べたり、既にもっている関連事実についての知識、情報を根拠として推量した結果を伝えたり、或いはまた他から得た情報をそのまま、つまり他から得た情報伝えたりする」と述べられている。本稿では、直感という感覚的な推量も、知識、情報をもとにしている明確な推量も、一定の根拠性があると考え。すなわち、「推量表現」に対応する“会”も「確言表現」に対応する“会”もある根拠に基づき、未完成の事柄への推量或いは判断を表すと考える。以下で明確な根拠が分かりにくい(45)を観察しよう。

(45) A は B と明日の卒業式について話している。

A : 明天的毕业典礼你父母会来吗?

(明日の卒業式にご両親は出席するでしょうか。)

B : 明天我妈妈会来。

(明日は母が出席します。)

(45)では、A は明日の卒業式に B の両親は出席するかどうかについて尋ねている。前後の文脈が提示されていないため、一見すると A は何かを根拠にして尋ねているとは考えにくい、(46)の用例と比較することで、明確になる。

(46) a. 明天的毕业典礼你父母会来吗?

(明日の卒業式にご両親は出席するでしょうか。)

b. 明天的毕业典礼你父母来吗?

(明日の卒業式にご両親は出席しますか。)

(46a)では「卒業式に B の両親は来る」という情報をまだ聞いてない、或いは「B の両親はもしかすると来れない」という情報を知り、それに基づき、B に両親が実際に来るかどうかを確かめている。(46b)は“会”を用いていない。従って、A は何らかの根拠の基づき確かめている場合もあれば、単純に根拠とは関係なく尋ねている場合もある。

#### 4.2 「未完成」を表す“会”のさらなる事例

本節では、上記で述べられていない事例を挙げながら、“会”が表す未完成の意味にさらなる検証を加える。具体的には、日本語の過去形、現在の事象を表す基本形と“会”の共起を考察し、“会”は未完成を表すことを実証する。

##### 4.2.1 過去形に対応する“会”

(47) a. 那夜如果我是个音乐家，一定会写出一部交响曲。

(《关于女人》)

b. もしもあの夜私が音楽家であったなら、必ずや交響曲を作りえたであろう。

(『女の人について』)

c. 那夜如果我是个音乐家，一定写出一部交响曲。

(48) a. 要不是我勉强忍住，大概会流泪的吧! (《人啊，人》)

b. もし、ぐっとこらえていなかったら、涙が流れただろう。(『ああ、人間よ』)

c. \*要不是我勉强忍住，大概流泪吧!

(49) a. 我从小就是个不安分的孩子，任何一点约束都会使我烦躁不安。(《轮椅上的梦》)

b. 私は小さいころから、おとなしくできない子どもで、どんなわずかな拘束にもいらだち、不安になった。(『車椅子の上の夢』)

c. 我从小就是个不安分的孩子，任何一点约束都会使我烦躁不安。

(47)-(49)は過去形に対応する“会”の用例である。日本語は過去形であるが、“会”を用いることができる。それはこれらの用例は基準時点は過去であるが、“会”の後の事柄はその基準時点の後に起こりうる事柄だからである。すなわち、過去という基準時点には事柄はまだ完成されていないという「未完成」を表しているため、“会”を用いる必要がある。(47)では基準時点は過去を表す「あの夜」、「会」の後の事柄「必ずや交響曲を作りえた」はあくまでも仮に「私が音楽家であったなら」ということが実現してから起こりうる事柄である。しかし、現実には「私は音楽家」ではないため、「交響曲を作る」ことも実現しない。従って、(47)は“会”を用い、事柄が実際には完成されていないという意味を表す。(47c)のように、“会”を取ると事実に対する叙述になるため、不適格である。(48)では、過去の基準時点に「もしぐっとこらえていなかったら」ということが実現されたら、「涙が流れた」こともその後に実現されたであろうことが予測できるが、これは反事実的な仮定表現であり、実際には「ぐっとこらえていたため、涙が流されなかった」意味を表している。「涙が流される」ことはまだ実現されていないため、「未完成」のマーカの“会”を用いる必要がある。(48c)のように、“会”を省略すると、文から未完成である意味がなくなるため、不適格である。(49)は「過去の性格」を表す用例である。ここで“会”を用いるのは「拘束」があったので「私は不安になった」という一回限りの動作の完了ではなく、私の性格に基づけば、「わずかな拘束があれば、私は「不安になる」という何回も繰り返し可能な過去における未完成なことへの断定を表すからである。

#### 4.2.2 現在事象を表す基本形と“会”

本節では感覚(五感など)で捉えられた動詞文に対応する中国語文に“会”を用いる場合と用いない場合の意味の異同を考察し、“会”の「未完成」という意味特性にさらなる検証を加える。

(50) a. 直到现在，每逢看见孩子做算术，我就会看见T女士的笑脸，脚下觉得热烘烘的，嘴里也充满了萝卜的清甜气味！(《关于女人》)

b. いまでも算数の勉強をしている子どもを見かけると、きまってT先生の笑顔が思い出され、足もとがぼかぼかと暖かくなり、大根のさわやかな甘みが口のなかに広がる。

(『女の人について』)

c. 直到现在，每逢看见孩子做算术，我就看见T女士的笑脸，脚下觉得热烘烘的，嘴里也

充满了萝卜的清甜气味！

(51) a. 她痴痴地立在那里，她明白她再敲也是没有用的，他不会听见。 (《家》)

b. 彼女は呆然とそこに立ったまま、もうたたいてもむだだと知った。彼には聞こえないのだ。 (『家』)

c. 她痴痴地立在那里，她明白她再敲也是没有用的，他听不见。

(52) a. 戴愉酒醒之后，会觉得自己很可笑地向你说了些‘梦话’。 (《青春之歌》)

b. 戴愉は酒の酔いがさめてから、じぶんが道化みたいに、きみに向かって『馬鹿な話』をしてしまったことに気づく。 (『青春の歌』)

c. 戴愉酒醒之后，觉得自己很可笑地向你说了些‘梦话’。

(50)-(51)は、五官によって捉えられる事態を表し、(52)は、主観的思考によって捉える事態を表している。(50c)-(52c)から分かるように、(50)-(52)に対応する中国語文は、“会”を付けても、付けなくても成立する。しかし、意味は互いに異なる。それは“会”を付ける(50a)-(52a)は、未完成の事態を表すのに対し、“会”を付ける(50c)-(52c)は現在の事態を表す<sup>13)</sup>からである。(50)では、“会”を付けている(50a)は「見える」という動作がまだ完成されていないことを表しているが、(50c)は現在「見えている」という意味を表す。(51a)は現在及びその後の未完成のことに対する推定も含み、「彼はこれからも聞こえない」という意味を表すが、(51c)は「彼は現在聞こえていない」という意味を表す。(52a)は「戴愉は酒の酔いがさめてから、気づく」という未完成のことを表すのに対し、(52c)は「戴愉は酒の酔いがさめて、気づいている」という現在の事態を表す。

## 5 おわりに

本稿は、コーパスの用例を中心に“会”に対応する日本語文の特徴、及び“会”を省略する場合には文の意味がどのように変わるかを手がかりに“会”の意味特性について考察した。考察の結果、“会”は「未完成」の事態に用いられ、主語が第一人称の場合は、「未完成+意志性」を表し、主語が他の人称の場合は「未完成+根拠性」を表すことを明らかにした。

本稿は“会”の意味特性を考察したが、今後は同じく可能性を表す助動詞の“能”の意味特性及び“会”との違いを検証したい。

### <注>

- 1) 黄麗華 1995 では、“会”は「能力」を表すか「可能性」を表すかを分類せず、まとめて、“会”の意味特性は「ことがらがごく自然に成立する」ことであると述べられている。
- 2) 寺村 2007:118 では、「未来のことゆえ未定な事態を、たぶんこうなるであろうと想像する予測」は推量を表す状況のひとつと述べられている。
- 3) 寺村 2007:123 では「はずだ」「ちがいない」などは「勘として事態や事柄を確信的に推量する」意味を

表すと述べられている。

- 4) 阳贝壳 2013:162 では、“会”が含まれる「推量ダロウ」の中国語訳文が「副詞+“会”+（吧）」と“会”だけ出る」の二つのタイプに分けられている。本稿はこれを踏まえ、コーパスの用例を考察した結果、三つのタイプに分けられると考える。
- 5) 本稿では「\*」はその表現が不成立、「?」はその文が「\*」で示されるほど不適格ではないものの、不自然であることを示す。
- 6) 寺村 2007:118 では推量を表す状況が次の(a)-(e)の五つのタイプに分けられている。(a)場所を異にするため・未知の現状を、恐らくこうであろうと想定する場合。(b)未来のことゆえ未定な事態を、たぶんこうなるであろうと想像する予測。(c)過去にあった事態に対して、事実とは異なる状況にあったと仮定して、仮に想像する反事実発想。(d)抽象的な論理の世界で導かれる結果や帰結を観念として推定する場合。(e)ある状態から次の状態へと移行する寸前での、状況変化を感知する判断。あるいは、ある現象の生起を予測ないしは察知する「将然」の判断。
- 7) 中国語は著者による訳である。
- 8) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』220 頁を参照されたい。
- 9) 寺村 2007:124 では、「はっきり断言するには多少の曖昧さが残るため、「だろう」と判断を和らげている」と述べられている。
- 10) 過去形との対応もある。しかし、過去形に対応する“会”も事柄の未完成を表す。具体的な説明は 4.2.1 に参照されたい。
- 11) 寺村 1984:61 では、活用形をとった用言の形とムードとの対応関係に関して、推量意志形は「概言ムード」、「意思表明ムード」、「勧誘ムード」を表し、基本形は「確言ムード」、「意志表現ムード」を表すと図で表現されている。本稿は、これに基づき、非推量表現を、「確言表現」と「意志表現」に大別する。
- 12) (26c)では“会”を省略すると文が非適切になるが、(26d)で示すように、“会”のかわりに“就”、“准”などの副詞を用いても文が成立する。すなわち、(26)では必ずしも“会”も用いなければならないということはない。
- 13) 寺村 1984 : (99-100)では、日本語の動的述語の基本形は「未来の事態を表すのが一般であり…基本形が現在の事態を表す場合がある。それは、ひとつは五官(六官)によって捉えられた外界の現象を即時的に言い表す場合であり、もう一つは、「思ウ」に代表される主観的な思考の動詞の場合である。」と記述されている。

## <引用文献>

- 相原茂 1996.『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』。東京:同出版社。
- 勝川裕子 2011.「可能の助動詞の“会”の属性描写機能」、『日中言語対照研究論集』第 13 号 163-177 頁。
- 黄 麗華 1995.「中国語の可能表現の“能”、“可以”、“会”」、『日本語研究』15 号:78-87 頁。
- 寺村秀夫 1984.『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』。東京:くろしお出版。
- 寺村秀夫 2007.『助詞・助動詞の辞典』。東京:株式会社東京堂出版。
- 王 晓凌 2007.〈“会”与非现实性〉，《语言教学与研究》第 1 期 60-67 页。
- 阳 贝壳 2013.〈关于认识情态形式 Darou 的研究 ——兼与中文对照〉，上海外国语大学博士论文。

## <例文出典>

《CCL 语料库》北京大学汉语语言研究中心  
《日本語句型词典》外语教学与研究出版社

主指導教員（朱継征教授）、副指導教員（大竹芳夫教授・秋孝道准教授）